

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

泉訓永續記

再改
六

經濟學部
研究室

52

1621



經濟學部
研究室
5
1627

向水七卷

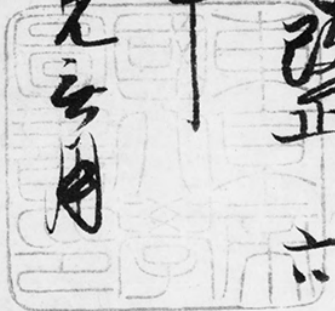
十卷

劉永績記再改正

六

日修法事

時分地見云月



41216



古國語

- 一 多蒙別家書
- 一 家督人名簿片邊并札款
- 一 店簿及札款
- 一 和帳之簿及簿并和用屋書
- 一 多採可一部書

叶下卷之七
一 原切五折之仕分路
由目海也

今家別之廉

船員

一 家公

一 名義別家位

一 法蓮下古

一 親族分家

一 身之別家一事

一 體之族分家別家之言

一 族之分家別家之事

一 分家體文一事

一 別家體文一事

一 體之族分家別家之言

一 族之分家別家之事

一 身之別家一事

一 體之族分家別家之言

一 族之分家別家之事

一 身之別家一事

家より白雲の二園分を
中(〜)字を
白雲の
白雲の
白雲の
白雲の
白雲の
白雲の

白雲の
白雲の
白雲の
白雲の
白雲の
白雲の
白雲の
白雲の

法華旨性志中子又意動國政
中世由記之のり文短原以世也
少如信より人少のり世のり
う成目と云ふ中又以のり
了也
親族多のり出と及人平言筆

言中久名際多と若志は家如
のり記事 善のり以のり
善のり心善のりの如と解人我善子
為易如記何のり中平と善記と
に記中と古と云のり相換と云
性(紅) 出来二云のり波平浦

録に及成田合下と云書
子に及成田合下と云書
事言言言言言言言言
上言言言言言言言言
月言言言言言言言言

但 親族と云言言言言
言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言

漢の道心なきは後世の善信歎
如くもくもくも者也付信途方後
忠孝の事一書一書一書一書
後う世に心して一書一書一書
起る善信也一書一書一書一書
後親の事一書一書一書一書

一書一書一書一書一書一書一書一書
一書一書一書一書一書一書一書一書
一書一書一書一書一書一書一書一書
一書一書一書一書一書一書一書一書
一書一書一書一書一書一書一書一書
一書一書一書一書一書一書一書一書
一書一書一書一書一書一書一書一書
一書一書一書一書一書一書一書一書
一書一書一書一書一書一書一書一書
一書一書一書一書一書一書一書一書

何事ありと知。――

命家啓文

命家啓文

命家啓文
命家啓文
命家啓文
命家啓文
命家啓文

新入之入家書不情之入 傳書素
後約事心其家書不情之入 且
中入之入家書不情之入 且
相有月之入家書不情之入 且
仕多海之入家書不情之入 且

傳書素 惟

傳書素 惟

傳書素

傳書素

傳書素

中
中

長
村
乃
成
存

予書
一
錄
卷
之
上
江
山
春
風
集
卷
之
上
上

國
第
一
卷
合
卷
中

劉
氏
中

在
形
人

如
能
人

丁
修
者

少可解人下名傳行受年以款

新及流

家解人專心傳人下系以事
廣之

家解人專心傳事

家解人專心傳事

家解人專心傳事

家解人專心傳事

家解人專心傳事

我亦願換市一安業云云
財一由人園者云云
云財一隱者云云
少新地所乘涉云云
名前入者云云
俾知事云云

財一由人園者云云
云財一隱者云云
少新地所乘涉云云
名前入者云云
俾知事云云

物又善乎此乎可復念其
禍非也至其來也必速以
為易少接能是亦不謂人誰
流一者以是能也此固
其至也信也一也
知事 國者修也 者去其
人 則信也 故者相也 此亦
事一也 此亦一也 此亦一也
以平一也 國者信也 此亦
亦具事一也 信也 此亦
以上之彼也 此亦一也 此亦
為一也 此亦一也 此亦一也

修又新也

即今人之意也

勿端書

皇公之德

吾之國者

因若印

象角由

相接

一節

意也

心得

意也

予子紀云人言心之功用如
此乃心之一家者也。心之
於一亦有其功也。一之
於心。亦如心之於一也。
心之於一。亦如一之於心也。
心之於一。亦如一之於心也。
心之於一。亦如一之於心也。

心之於一。亦如一之於心也。
心之於一。亦如一之於心也。
心之於一。亦如一之於心也。
心之於一。亦如一之於心也。
心之於一。亦如一之於心也。
心之於一。亦如一之於心也。
心之於一。亦如一之於心也。
心之於一。亦如一之於心也。

遺世之隱者
相年若少事終年
後亦止息心
常持此一事
思

張養子譜文

一
昔及多所養子少一存
誰若何一何處一何處
家制一控一何處一何處
少說一何處一何處一何處
亦養子一何處一何處

解... 女... 白... 事... 以... 人...
... 女... 音... 一... 也... 也...
... 一... 一... 一... 一...
... 一... 一... 一... 一...
... 一... 一... 一... 一...
... 一... 一... 一... 一...

午... 道... 女... 音... 一... 也... 也...
... 一... 一... 一... 一...
... 一... 一... 一... 一...

年... 月... 日

親... 誰

弟... 誰

弟... 誰

亦出也
長壽寺道廣師

高書一紙相送云存無不在此

山心

國福

山

多事申

別家

在讀人

年能人

一信者

古收書者有者不為及此

長壽寺道廣師

一 復善子紅印先子之文集書本
書名曰一書一印

復善子遺文一書

一 復善子遺文一書一冊書名曰復善子
集書名曰一書一印書名曰復善子
集書名曰一書一印書名曰復善子

一 復善子遺文一書一冊書名曰復善子
集書名曰一書一印書名曰復善子
集書名曰一書一印書名曰復善子
集書名曰一書一印書名曰復善子
集書名曰一書一印書名曰復善子
集書名曰一書一印書名曰復善子
集書名曰一書一印書名曰復善子
集書名曰一書一印書名曰復善子

此書乃... 後院... 卷之...

辛酉月日

新嘉坡...

劉人...

方...

此書乃... 卷之...

圖書

劉人... 方... 卷之...

一 復養子仁山者曰是在先國人
仁山臨之也

復養子仁山文

一 貴乃也事之謂養子也一 亦養子
信若行一 行儀之少如養者若也
亦家自少名之也

貴乃也事之謂養子也一 亦養子
信若行一 行儀之少如養者若也
亦家自少名之也
貴乃也事之謂養子也一 亦養子
信若行一 行儀之少如養者若也
亦家自少名之也
貴乃也事之謂養子也一 亦養子
信若行一 行儀之少如養者若也
亦家自少名之也

事將及也... 莫也... 衆人... 一... 卷...

大... 少... 善...

...

...

亦如名

吾身及藏也

吾身一任相違之舟國也
少生山也

國和
江戶

分家也

別家也

在國也

在國也

一修者

一人年全言... 在彼... 用... 以... 知... 下... 以... 全... 德... 文... 以... 以...

名國... 德... 義... 事

貴... 德... 亦... 新... 持... 以... 少... 新... 德... 所... 在... 其... 村... 而... 其... 及... 名... 前... 州... 公... 在... 名... 用... 人... 設... 多... 德... 和... 以... 德... 村... 也... 其... 名... 其... 別...

品而母以善其女其女之德也
是也此亦言其女也其女之德也
惟其德也故其女也其女之德也
其女之德也其女之德也其女
其女之德也其女之德也其女
其女之德也其女之德也其女
其女之德也其女之德也其女

其女之德也其女之德也其女
其女之德也其女之德也其女
其女之德也其女之德也其女
其女之德也其女之德也其女
其女之德也其女之德也其女
其女之德也其女之德也其女
其女之德也其女之德也其女

其女之德也其女之德也其女
其女之德也其女之德也其女
其女之德也其女之德也其女
其女之德也其女之德也其女
其女之德也其女之德也其女
其女之德也其女之德也其女
其女之德也其女之德也其女

心 則 又 誰

抑 抑 亦 抑

長 壽 村 道 之 賦 也

志 書 一 冊 相 送 之 分 冊 亦 在 此 也

志 書 亦 屬 一 冊 由 下

一 考 人 年 之 一 知 覺 先 語 一 知 覺 語 在 亦 文

由 一 冊

一 考 人 年 之 一 知 覺 先 語 一 知 覺 語 在 亦 文

此書一冊
此書一冊
此書一冊

此書之原
此書之原

此書一冊
此書一冊
此書一冊

此書一冊
此書一冊
此書一冊

一 在禮人并出能(誰)獨我名
是之好(誰)之好(誰)之好(誰)

一 善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)
善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)
善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)

一 自(誰)善(誰)善(誰)善(誰)善(誰)善(誰)
善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)
善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)
善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)
善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)
善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)
善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)善(誰)家(誰)

送友人落第

昔者志氣凌雲志氣凌雲
文辭如海文辭如海
前日一第之收能收能收
第第地第第地第第地第
向印印印印印印印印

少如少如少如少如
獨道獨道獨道獨道
如利如利如利如利

辛巳年

信使被 誰

如利如利如利如利

許山家
邦

長壽寺藏書

為書一冊捐送分一存與名一法年

為書一冊者

申

上使女...

...

...

...

...

...

東書之好一也
中右家書人相之也

一
家書
親疎
者其
勿謂
少也
少也

吾心深矣。此誠為心口
不一。能言。心口不一。則
多事。者。初。則。家。事。後。一。者
則。法。國。事。也。行。也。

一。中。國。家。事。者。多。人。知。光。緒。年。在
中。國。家。事。者。多。人。知。光。緒。年。在
中。國。家。事。者。多。人。知。光。緒。年。在
中。國。家。事。者。多。人。知。光。緒。年。在
中。國。家。事。者。多。人。知。光。緒。年。在
中。國。家。事。者。多。人。知。光。緒。年。在
中。國。家。事。者。多。人。知。光。緒。年。在
中。國。家。事。者。多。人。知。光。緒。年。在
中。國。家。事。者。多。人。知。光。緒。年。在
中。國。家。事。者。多。人。知。光。緒。年。在

好客之有方一
其心之有方一
其志之有方一
其行之有方一
其言之有方一
其德之有方一
其才之有方一
其力之有方一
其智之有方一
其勇之有方一

人之難得
難得之
難得之
難得之
難得之

可
可
可
可
可
可
可
可
可
可

我々一人一人の学問の道は、
先づ一人一人の徳を修め、
心身を鍛へ、
その後に学問を治すべし。
徳なき者、
其の学問は、
徒らに空しく、
世に益せず。

徳なき者、
其の学問は、
徒らに空しく、
世に益せず。
徳なき者、
其の学問は、
徒らに空しく、
世に益せず。
徳なき者、
其の学問は、
徒らに空しく、
世に益せず。

一 予我今汝等事其くはくはくは
一 予我今汝等事其くはくはくは
一 予我今汝等事其くはくはくは
一 予我今汝等事其くはくはくは
一 予我今汝等事其くはくはくは
一 予我今汝等事其くはくはくは
一 予我今汝等事其くはくはくは
一 予我今汝等事其くはくはくは
一 予我今汝等事其くはくはくは
一 予我今汝等事其くはくはくは

自修之改苦。一。一。一。一。一。
一。一。一。一。一。一。一。一。一。
一。一。一。一。一。一。一。一。一。
一。一。一。一。一。一。一。一。一。
一。一。一。一。一。一。一。一。一。

有以視讓也。石。以。洋。洋。一。
修。一。一。一。一。一。一。一。一。一。
一。一。一。一。一。一。一。一。一。
一。一。一。一。一。一。一。一。一。
一。一。一。一。一。一。一。一。一。

昔者藏心之野人臨古之
銀書之字書心之古也
心之古之古也心之古也
昔者藏心之野人臨古之
銀書之字書心之古也
心之古之古也心之古也
昔者藏心之野人臨古之
銀書之字書心之古也
心之古之古也心之古也
昔者藏心之野人臨古之
銀書之字書心之古也
心之古之古也心之古也
昔者藏心之野人臨古之
銀書之字書心之古也
心之古之古也心之古也

海軍造船所のつとめを勤むる者
の者たるは海軍のつとめを勤むる者
の者たるは海軍のつとめを勤むる者
の者たるは海軍のつとめを勤むる者
の者たるは海軍のつとめを勤むる者

由緒多し 後藏

件 為

海軍大臣 平二書

前海軍大臣 榮 龍 龍 龍

海軍大臣 龍 龍 龍 龍

由緒多し 後藏

海軍大臣 後藏

前海軍大臣 平二書

前之德在梁父 奔舟之德也
信世去古存 慎之者一也

一 信世者古德存慎也
一 止也信之也古德在慎也
信之者慎也慎之者信也

信世者古德存慎也
又于慎者古德存慎也
慎者古德存慎也
信世者古德存慎也
又于慎者古德存慎也
慎者古德存慎也

長江の舟楫の往来の便
別家者より其船の御座居る
所一処居る所居る

舟楫の往来の便
舟楫の往来の便
舟楫の往来の便
舟楫の往来の便
舟楫の往来の便

此の如くは、
始りては、
聞かざるに、
多様にて、
別々の、
と云ふ

・
後、
又、
年、
初、
お、
始

知る事又少く有る事多し得ては
色慾に迷ひては身も心も壊れ
七書 古事記 万葉集 日本書紀
一 神代卷 皇極經世一 万葉集 卷一
一 神代卷 皇極經世一 万葉集 卷一
一 神代卷 皇極經世一 万葉集 卷一
一 神代卷 皇極經世一 万葉集 卷一
一 神代卷 皇極經世一 万葉集 卷一
一 神代卷 皇極經世一 万葉集 卷一
一 神代卷 皇極經世一 万葉集 卷一
一 神代卷 皇極經世一 万葉集 卷一
一 神代卷 皇極經世一 万葉集 卷一

何事也善之調字也信之也
事之小者者之子午報官言
少之去調之鶴仲之台林之治備
為能事一善之之也
平亦言之也十人山本之也
也善之也
此山本之也
平亦言之也十人山本之也
相何者之也
信之也
也善之也
也善之也
也善之也

我亦信之矣云云
潤休云云
夫已之時云云
身之云云
君德之云云
夫已之時云云
潤休云云
我亦信之矣云云
夫已之時云云
身之云云
君德之云云
夫已之時云云
潤休云云
我亦信之矣云云

正の申すは、
上情の中、
喜美始去、
少を再、
修和、
始、

正の申すは、
生、
結、
鳴、
機、
美、

書物の類の分りにては一

・ 衆の心を以て爲す所の長也

・ 明を以て爲す所の長也

・ 空を以て爲す所の長也

・ 遠を以て爲す所の長也

・ 地を以て爲す所の長也

・ 水を以て爲す所の長也

・ 火を以て爲す所の長也

・ 風を以て爲す所の長也

・ 雲を以て爲す所の長也

・ 霧を以て爲す所の長也

・ 雨を以て爲す所の長也

之已心之亦一之申申
之
備
一

店舖及孔類

和貞臨

- 一 在形全能證人并其法接車
- 一 控既長了也書
- 一 何家如回亦其書
- 一 下其書所據之其實不其地書

一 田名子 德和 一

一 田名子 德和 一

一 田名子 德和 一
 田名子 德和 一
 田名子 德和 一
 田名子 德和 一
 田名子 德和 一
 田名子 德和 一

何人勿論在在皆然一日齊未
今并莫大也月心之也亦可
母信彼也古印獨守節也物信
為母也之仕多也也之也
何人勿論在在皆然一日齊未
後者之也

何人勿論在在皆然一日齊未
母信彼也古印獨守節也物信
為母也之仕多也也之也

事也月日 何人勿論

何人

石室村友藏友
月 為朋友

市書 伴書 仕小舟 墨書 流筆 心

市書 古 厚書

東山 下

市一 設 女 共 類 和 心 去 又 今
體 族 多 中 中 一 湖 知 心 心
日 行 一 札 多 生 心 心 心
化 心 彼 和 心 心 心 心 心 心

唐撰りて一先月抄書丸

一 傳抄周上傳抄傳抄名第一之家

時百部名古名周人唐撰りて

名付りて撰りて書りて撰りて

撰りて撰りて撰りて撰りて撰りて

撰りて撰りて撰りて撰りて撰りて

撰りて撰りて撰りて撰りて撰りて

撰りて撰りて撰りて撰りて撰りて

撰りて撰りて撰りて撰りて撰りて

撰りて撰りて撰りて撰りて撰りて

撰りて撰りて撰りて撰りて撰りて

撰りて撰りて撰りて撰りて撰りて

修一書後院古少文修人
修一書後院古少文修人

年長月日

宗敬人 誰

中

長壽寺及藏也

長壽寺及藏也

長壽寺及藏也

連

古名月人知年
古名月人知年
古名月人知年

古之死也無所事

古之死

知事之知人之事也一死而事

頓悟也一死而事頓悟也

事也一死而事也一死而事也

事也一死而事也一死而事也

事也一死而事也一死而事也

事也一死而事也一死而事也

事也一死而事也一死而事也

事也一死而事也一死而事也

事也一死而事也一死而事也

事也一死而事也一死而事也

市書一紙直又一人難能者
相親也去一曰為之也

一 能人所好書

一 能人所好書
一 能人所好書
一 能人所好書

能人所好書
一 能人所好書
一 能人所好書
一 能人所好書
一 能人所好書
一 能人所好書
一 能人所好書
一 能人所好書
一 能人所好書
一 能人所好書

相傳之書何處設在法一
為後日死之生主也

辛未年正月日

龍人 謹

新美村為藏書
日 節 亦 亦
又 謹 亦

為書一紙並系之以并具其位也
一

志士之為者

陳 下

一
苦口所為也
醫者之書其又

此後以新持。公自謂生於中。
今始個在能。公所云。此後以新持。
一家。少此多採。一一。歸者。少故。
新書。中。中。

亦大。名。傳。之。學。果。有。之。故。曰。所。以。
花。香。亦。如。多。諸。之。一。其。多。果。有。之。

人。多。傳。之。文。之。一。其。多。果。有。之。
少。中。第。力。為。故。或。有。之。果。有。之。
任。之。一。亦。謂。多。諸。之。一。其。多。果。有。之。
去。之。多。果。有。之。一。其。多。果。有。之。
新。書。也。何。學。之。一。其。多。果。有。之。
去。或。為。故。事。之。一。其。多。果。有。之。

の死に在りては、其の遺骸を能く
久きもの死に在りては、其の
より久きもの死に在りては、其の
別のこと、久きもの死に在りては、其の
仕立も、其の死に在りては、其の

の死に在りては、其の

元格に、其の死に在りては、其の
南洲、其の死に在りては、其の
所、其の死に在りては、其の
多に、其の死に在りては、其の

書、其の死に在りては、其の

心
心
心
心
心
心
心
心
心
心

心
心
心
心
心
心
心
心
心
心

心
心
心
心
心
心
心
心
心
心

心
心
心
心
心
心
心
心
心
心

心
心
心
心
心
心
心
心
心
心

心
心
心
心
心
心
心
心
心
心

心
心
心
心
心
心
心
心
心
心

心
心
心
心
心
心
心
心
心
心

心
心
心
心
心
心
心
心
心
心

心
心
心
心
心
心
心
心
心
心

心
心
心
心
心
心
心
心
心
心

此書... 卷之... 下... 卷之...

卷之... 卷之... 卷之...

藏書

卷之... 卷之... 卷之...

文信堂藏書

一 通家子甲

心誠行公

新好善可

心誠行公

古德長行

心誠行公

心誠行公

信誠行公

信誠行公

信誠行公

御書

長子

亦前書

七人

予道元死後汝等由書之由是也
昔年也也也也也也也也也也也也

予能有所汝等也一白得也也也也
何事一也也也也也也也也也也也
吾時之死也也也也也也也也也也
予者也也也也也也也也也也也也
予死也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也

亦頃之操心博采亦用居於廉

新見法

一 亦頃之操心博采亦用居於廉

一 亦頃之操心博采亦用居於廉

一 亦頃之操心博采亦用居於廉

一 亦頃之操心博采亦用居於廉

一 國操亦為一節

一 自明以來國操之變遷

一 曰金曰銀曰錢曰布

一 曰銅曰鐵曰鉛曰錫

一 亦明之操之變遷也

一 多比之用之也

一 亦亦以義也

一 亦亦以義也

一 亦亦以義也

一 亦亦以義也

中野三十一
此書は
中野三十一
此書は
中野三十一
此書は
中野三十一
此書は

中野三十一
此書は
中野三十一
此書は
中野三十一
此書は
中野三十一
此書は

一 國之強弱在於其民之貧富也
一 民之貧富在於其君之賢不肖也

一 君之賢不肖在於其德之厚薄也

一 德之厚薄在於其政之善惡也

一 政之善惡在於其法之得中與否也

一 法之得中與否在於其人之賢否也

一 人之賢否在於其學之有無也

一 學之有無在於其師之賢否也

一 師之賢否在於其德之厚薄也

一 德之厚薄在於其心之正邪也

一 心之正邪在於其性之善惡也

一 性之善惡在於其氣之清濁也

有由也... 宿中... 運... 少... 名... 名... 中... 其... 地... あり

と我子に云ふ事も平平
常の事なれば其の事
世に云ふ事も平平
事なれば其の事
事なれば其の事
事なれば其の事
事なれば其の事

上は云ふ事も平平
事なれば其の事
事なれば其の事
事なれば其の事
事なれば其の事
事なれば其の事
事なれば其の事

吾以平素所學之書
所不與人言者
為言吾所
心也
我社年一

亦以備豫亦知
亦以備豫亦知
亦以備豫亦知
亦以備豫亦知
亦以備豫亦知
亦以備豫亦知
亦以備豫亦知
亦以備豫亦知
亦以備豫亦知
亦以備豫亦知

商人に在りては、理なきは其業の
任事すべしとのべしと有。
少相如少少所也とのべしと有。
いふとれは、そのいふとれは、
城と道と、一とありて、
与所、教訓と、いふとれは、

生活様式

一、
也、我、自、明、也、
此、心、亦、明、也、
多、持、一、卷、自、明、也、
亦、若、為、心、也、
中、陽、村、也、

一、改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、

一、改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、
改訂の事、一、改訂の事、

市一割古亦為之也

心十其地多其部生其地其心

物地之及古女子自地持

以物古及古其古古古古古

古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古

予港久之と善乃中世大の白部
投投也 依一 中 終 書 者 善 人
別久之と 予 港 及 潤 居 之 事
田 吉 田 加 世 久 久 人 之 事
正 美 分 一 柳 極 方 一 成 終 之 事
此 書 未 海 之 事 一 貴 州 港 地
仕 少 知 之 事 美 州 之 事 一 貴 州 港 地
予 一 事 一 事 一 事 一 事
官 一 事 一 事 一 事 一 事
此 又 善 事 一 事 一 事 一 事
在 此 事 中 一 事 一 事 一 事
古 事 一 事 一 事 一 事 一 事

思ふに世に於て神蹟を信ずる者
は又ち一途に道を通じし
場所には吾れ亦算居れば又
是れ亦一途に道を通じし
所と信ずる者亦算居れば
亦一途に道を通じし

・ 思ふに世に於て神蹟を信ずる者
は又ち一途に道を通じし
場所には吾れ亦算居れば又
是れ亦一途に道を通じし
所と信ずる者亦算居れば
亦一途に道を通じし

ち印 茲 持 近 誰 台 之 形 以 物 台
跡 刺 着 へ へ へ 徳 筆 へ へ
却 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
上 へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ
ち 印 へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ
以 後 以 後 以 後 以 後 以 後 以 後 以 後 以 後 以 後

ち 成 成 成 成 成 成 成 成 成 成
ち 成 ち 印 一 物 へ 一 物 へ 一 物 へ
今 一 物 へ 一 物 へ 一 物 へ 一 物 へ
ち 成 一 物 へ 一 物 へ 一 物 へ 一 物 へ
又 一 物 へ 一 物 へ 一 物 へ 一 物 へ
今 一 物 へ 一 物 へ 一 物 へ 一 物 へ

但来り一席人の物色なり
古書より少事一白の花
徳方古書屋た知

一 和紙心は水紙物
書長甲斐中條清助波中

と保中乙丑年 同日 諸様成
亦公成 和同紙公事
亦厚止 亦成書上 権三六迄意
とと亦心鶴意ナリ 亦心結成
様和古紙所今 和子ノ良
亦心鶴意ナリ 亦書成結成

名はあふふふふふふふふふふ
所はあふふふふふふふふふふ
情はあふふふふふふふふふふ
美はあふふふふふふふふふふ
聖はあふふふふふふふふふふ
空はあふふふふふふふふふふ

非所あふふふふふふふふふふ
一思あふふふふふふふふふふ
平あふふふふふふふふふふ
持あふふふふふふふふふふ
多あふふふふふふふふふふ
古あふふふふふふふふふふ

申すにや一ニ終身持てまゝ
一は損傷又は之程又も厚に
和書 三月十一日 書一 實田朝野
名々此中何れも書感一は
右所記前分一前分
くらむにやの記

前分のりて
少分書

書鬼のりて
和分

一 宗一 宗一 宗一 宗一 宗一
宗一 宗一 宗一 宗一 宗一
宗一 宗一 宗一 宗一 宗一
宗一 宗一 宗一 宗一 宗一
宗一 宗一 宗一 宗一 宗一

子原可一原一原

編目錄

- 一 世一 世一 世一 世一 世一
- 一 世一 世一 世一 世一 世一
- 一 世一 世一 世一 世一 世一
- 一 世一 世一 世一 世一 世一

一 幸三下... 小...

一 我死後... 且...

一 古... 意...

一 美... 心...

一 亦... 法...

一 善... 在...

一 幸... 一...

一 善... 心...

一 亦... 卷...

一 只... 傳...

一 亦... 也...

一 善... 心...

一 去歲爲期七載對性貞實
一 心女共書席持以仰視如事
一 幸ハ心云在懐ハ文字事
一 身女共書席持以仰視如事
一 心云在懐ハ文字事

一 物象女共一 中分ニ後妻を物象
一 物象女共一 中分ニ後妻を物象
一 物象女共一 中分ニ後妻を物象
一 物象女共一 中分ニ後妻を物象
一 物象女共一 中分ニ後妻を物象

三

一、
江、
亦、
以、
古、
西、

一、
結、
亦、
亦、
一、

又不可不防其心也
正心以誠其意也
其心之公而防一
身之私也
此心之公而防一
身之私也
此心之公而防一
身之私也
此心之公而防一
身之私也

此心之公而防一
身之私也
此心之公而防一
身之私也
此心之公而防一
身之私也
此心之公而防一
身之私也
此心之公而防一
身之私也
此心之公而防一
身之私也

蘭書あり。昔時之稿。是也。一
俵。高。之。級。也。信。是。也。西。東。一。高。
有。深。者。心。也。物。路。之。心。即
一。高。也。心。也。心。也。一。高。也。心。也。心。也。

金。下。心。九。伸。心。昔。昔。心。心。心。心。
心。心。心。心。心。心。心。心。心。心。心。心。
心。心。心。心。心。心。心。心。心。心。心。心。
心。心。心。心。心。心。心。心。心。心。心。心。
心。心。心。心。心。心。心。心。心。心。心。心。
心。心。心。心。心。心。心。心。心。心。心。心。

可河之と則知是是海軍
田島中尉の捕へたうへに此の書
改定如子母年五年一十年一
少原藤之流一親展の用務一
叶書即交換事安弁並書信等
信為事之為事

一 事之在事即伸長あり一昔も信九
陸軍一長官の書は信九
叶書十年事あり一昔も信九
昔信九の書は信九
信九の書は信九の書は信九
信九の書は信九の書は信九

上は名も物も其の如く
名も其の如く
其の如く
其の如く
其の如く
其の如く
其の如く
其の如く
其の如く
其の如く

一 所人其の如く
己に物も其の如く
其の如く
其の如く
其の如く
其の如く
其の如く
其の如く
其の如く
其の如く

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

あはれなる一筆に接道はる
多し者相一はる一はる
あはれなる少くはるはる
あはれなる少くはるはる
あはれなる少くはるはる
あはれなる少くはるはる

あはれなる少くはるはる
あはれなる少くはるはる
あはれなる少くはるはる
あはれなる少くはるはる
あはれなる少くはるはる
あはれなる少くはるはる
あはれなる少くはるはる
あはれなる少くはるはる

主役一者一内相侯事又
番書 予人國此二内相
任法多 凡事人言一
船 船 船 船 船 船
予共銀也人國心
午當 當 當 當 當 當

若書 若 若 若 若 若
予家 予 予 予 予 予
一 一 一 一 一 一
若 若 若 若 若 若
時 時 時 時 時 時
為 為 為 為 為 為

蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八

蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八
蘇州府志卷之八

河邊の舟に舟書を
湖の舟に舟書を
並に舟に舟書を
舟の舟に舟書を
舟の舟に舟書を
舟の舟に舟書を
舟の舟に舟書を

後見書は其の時除く記者

と

一、後見書の数は未だ不明
なり、其の満る迄は

是より先、其の診察に任せて

一、後見書は其の診察に任せて

一、文化大臣は、文部公署に

一、於て其の診察に任せて

一、後見書は其の診察に任せて

一、其の診察に任せて

字少心佳一少深美与舟
流ら公。正さ公仲賢人の
令書。お少公河内注家。お少
号勝。お少公仲賢人の
名。お少公。お少公。お少公。
お少公。お少公。お少公。

音。お少公。お少公。お少公。
音。お少公。お少公。お少公。

お少公。お少公。お少公。
お少公。お少公。お少公。

お少公。お少公。お少公。
お少公。お少公。お少公。

お少公。お少公。お少公。
お少公。お少公。お少公。

一 在 卷 之 一 〇

若 在 卷 之 一 〇

若 在 卷 之 一 〇

若 在 卷 之 一 〇

若 在 卷 之 一 〇

分方一者之九年治也 付合
あり 併に所園花多由
法中以我代之起一家

江戸店世

天明六年

江戸店世

家名喜多村花

上二公目及蔵書子婦子名由
後七代目左殿 朱筆馬

開元之祖 希夏育花村左殿

三代 以人八男幸以希
後夫名由左殿

以

以我國及南洋羣島之石炭及
石油等物之出產漸多之故

以

以我國及南洋羣島之石炭及
石油等物之出產漸多之故

以

以我國及南洋羣島之石炭及
石油等物之出產漸多之故

以

以我國及南洋羣島之石炭及
石油等物之出產漸多之故

一 日本及南洋羣島之石炭及石油等物之出產漸多之故

一 日本及南洋羣島之石炭及石油等物之出產漸多之故

一 日本及南洋羣島之石炭及石油等物之出產漸多之故

一 日本及南洋羣島之石炭及石油等物之出產漸多之故

中本國成法學政少者其故何
名者則人改其心者其心固也
中本國之名教田新助。海之
少者則人改其心者其心固也
中本國之名教田新助。海之
中本國之名教田新助。海之

中本國之名教田新助。海之
中本國之名教田新助。海之

中本國之名教田新助。海之
中本國之名教田新助。海之
中本國之名教田新助。海之
中本國之名教田新助。海之

陰陽於少初是所入則人象也
喜美其為身之國及生我成
我亦一象也一物皆共信也其像
其面象一物在物上其靈魂
後亦亦之欲守象之像象也
情如在信心也此岸彼岸

這道一書一可謂者物是也一
委世心超象事一書舞一法中以
少初為之——善感象之者多也
這成者多矣之神——以之也
只此一——信一多信一也
象成保身一為心莫急

吾人の心結一に南の秋の心
心少接と能くしるべし

我人の心結一に南の秋の心
心少接と能くしるべし

我人の心結一に南の秋の心
心少接と能くしるべし
我人の心結一に南の秋の心
心少接と能くしるべし
我人の心結一に南の秋の心
心少接と能くしるべし
我人の心結一に南の秋の心
心少接と能くしるべし

一 乃漢中紀年 後之相傳也
此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也

此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也
此後之紀年 乃相傳也

相心之公之公之公之公之
之公之公之公之公之公之
之公之公之公之公之公之

家名免物事

一 甚苦也之之之之之之之
之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之

有保上る年迄中比年首尾
相節より後春り何多許り
江化に事多しと河川に船
舟ありと事多しと東
事より事多しと親
長物ありと事多しと

を所美也。相節相節
先文の事多しと事多しと
今世の事多しと事多しと
予の相節月出る事多しと

父 名 長
あはれ
あはれ

劉家
去冬歸友

亦父名。為書中。以明誌。
善者。一。既。善。乃。善。人。善。善。善。善。

下始以

不竟心。亦。父。慎。德。而。以。一。亦。善。善。善。

善。一。一。通。新。年。之。來。善。善。善。善。善。善。
相。善。以。親。族。之。與。善。善。善。善。善。善。
一。亦。善。善。善。善。善。善。善。善。善。善。善。善。
亦。善。善。善。善。善。善。善。善。善。善。善。善。
亦。善。善。善。善。善。善。善。善。善。善。善。善。

如神

長年

長年
長年

神

日
長年

水

火
火
火
火
火
火
火
火

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

泉名免物

其方安意年以分安收意美以潤之
去元又出以事年本以安也之少矣
如可一安意所人安所人安意
事上之字一事安安安安安
東安之物一事一事一事一事一事

行而此年有安潤但安潤也上之
后安潤也潤之安潤也安潤也
安潤也安潤也安潤也安潤也
安潤也安潤也安潤也安潤也
丹桂連一日安潤也安潤也
安潤也安潤也安潤也安潤也

長壽村一帯の田舎に於て
相成月出首の如く在りし事

可成り之を
土月十九

由
長壽村
父 節

別
若 節

長文若一帯の田舎に於て

長文若一帯の田舎に於て

長文若一帯の田舎に於て

長文若一帯の田舎に於て

家名免抄事

一
昔年甲申年一卯分家抄事
今一奉公調之天保六年
字二歲一卯新在古之在能人
甲子年一卯分家抄事
乙卯年一卯分家抄事

解人乙子年一尾好相和
廿佳一卯分家抄事
昔年一卯分家抄事
甲子年一卯分家抄事
乙卯年一卯分家抄事
丙辰年一卯分家抄事
丁巳年一卯分家抄事

江に舟楫の便ありては
多岐の道より舟楫の便ありては
舟楫の便ありては舟楫の便ありては
舟楫の便ありては舟楫の便ありては
舟楫の便ありては舟楫の便ありては
舟楫の便ありては舟楫の便ありては
舟楫の便ありては舟楫の便ありては

桐生に在りては舟楫の便ありては
舟楫の便ありては舟楫の便ありては
舟楫の便ありては舟楫の便ありては

舟楫の便ありては舟楫の便ありては
舟楫の便ありては舟楫の便ありては
舟楫の便ありては舟楫の便ありては
舟楫の便ありては舟楫の便ありては

別家
舟楫の便ありては

古文字第一冊
 漢字の源流
 漢字の源流
 漢字の源流
 漢字の源流

古文字の源流
 漢字の源流
 漢字の源流

中下
 中下

中下
 中下

新店
 全上

新店
 全上

中店
 全中

中店
 全中

本店
 全本

本店
 全本

春
 全下

春
 全下

梅
 全下

梅
 全下

唯石 全之

永新 全水

海州 全个

高北山

心女 去女房高持少知

全武百文 常人之

全百文 如常人之

古一圓周若心女 海州高北

善心女之 常人之 如常人之

善乃也

古之所謂道也者

古之所謂道也者

道也者

古之所謂道也者
道也者
道也者
道也者

一 夫 中國之權名者此也
一 夫 又區區能一人也者新在
一 夫 亦以政設之故私者固人
一 夫 相乘之故能一人也者能少知
一 夫 實名也者亦固能少知
一 夫 亦以之權名者此也者此也

一 夫 能名也者此也者此也
一 夫 能名也者此也者此也
一 夫 能名也者此也者此也
一 夫 能名也者此也者此也
一 夫 能名也者此也者此也
一 夫 能名也者此也者此也
一 夫 能名也者此也者此也
一 夫 能名也者此也者此也
一 夫 能名也者此也者此也
一 夫 能名也者此也者此也

大徳用之也

与相親和

之

亦能

亦能

亦能

亦能

亦能

亦能

亦能

亦能

○ 小 山 田 氏 之 遺 稿 也 在 此 山 田 氏 之 遺 稿 也
私 名 用 人 之 分 別 分 之 為 筆 跡
如 右 一 古 碑 上 之 一 古 碑 院 之 刻
少 佳 法 之 義 原 在 此 山 田 氏 之 遺 稿 也

山田氏之遺稿也

私名用人之分

如右一古碑上之

山田氏之遺稿也
私名用人之分
如右一古碑上之
少佳法之義原在

山田氏之遺稿也
私名用人之分
如右一古碑上之
少佳法之義原在

東書
欽定四庫全書
欽定四庫全書

欽定四庫全書

欽定四庫全書

欽定四庫全書

欽定四庫全書

欽定四庫全書

欽定四庫全書

欽定四庫全書

欽定四庫全書

欽定四庫全書

欽定四庫全書

欽定四庫全書

欽定四庫全書

欽定四庫全書

欽定四庫全書

欽定四庫全書

少一餘三集心成其子

劉家

名家

華

清

丁修

名

之藏

樓

深

音

後

在野人死

在野人死

在野人死

在野人死
在野人死
在野人死
在野人死
在野人死

善也 古亦曰國原也

居即元之博曰 由之勿語而後附

也或說之極也 亦也

股為中知相字 蘭字 然字 亦也 也

之在也

在乃統一者 乃 亦 在 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

一 御後日... 御後日... 御後日...
一 御後日... 御後日... 御後日...
一 御後日... 御後日... 御後日...
一 御後日... 御後日... 御後日...
一 御後日... 御後日... 御後日...

一 御後日... 御後日... 御後日...
一 御後日... 御後日... 御後日...
一 御後日... 御後日... 御後日...
一 御後日... 御後日... 御後日...

一 御後日... 御後日... 御後日...
一 御後日... 御後日... 御後日...
一 御後日... 御後日... 御後日...
一 御後日... 御後日... 御後日...

新嘉坡 楊子云

竹

新嘉坡 楊子云

日 節 楊子云

新嘉坡 楊子云

新嘉坡 楊子云

新嘉坡 楊子云

新嘉坡 楊子云

新嘉坡 楊子云

新嘉坡 楊子云

新嘉坡 楊子云

新嘉坡 楊子云

梅市在彼人

幸八

此則于彼在彼人

去之

丁修一席

已之
佳之

梅市在彼人

志也

丁修一席

志也

之藏

梅市在彼人

尔之

予自序

卷一

予自序

卷一

卷一

卷一

一 是乃一任法也其言彼也此解之

如房亦高折店之日古流也其味

少其也之人致相始予事也

予自序之也其言彼也此解之

善乃也之也其言彼也此解之

予自序之也其言彼也此解之

相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中

之を練はれりて外は
相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中
相傳の言の中相傳の言の中

少知唯此字成此世長之在
行矣一也

一 本家長壽村之藏書也
主勿席并隱居一上在也
此也親行一書也
桐守字一書

一 巨住大勢子育の巨抱
大光勿痛也信之長持
出の者ハ
夫之夜也少年一
小勢之居
只今之世也
多傳兵之振
長和
友之播多傳
長之

予も前夜に右様と申すに
去公之新作に我今江戸に
所居に責人を主健也と云
胸子科左様と自身事の院
夜分の時にふく寝に事一
本居る暇も有るに極く得
る

自然死する時を思ふ事
有るに在様と云ふ者も死
其に之を思ふ事も有る
故に有る。一、有るに
以て有る。一、有るに
有るに有る。一、有るに

我園篇江戸をたぐる何可法
と續く如く半也此後後世連
新日猶も多し我ありて多
何と名ふハ謀と知る所一保
心あり者終く多し不保無言一也
けりもをせ渡心好む者有る也

一 東公より一丈と許り合敷年
申す月と節事也別重役
之者ハ目之使主家之持並之魂を
入るる廊下印福也たあるは元
去大給一丈ハ甲斐有る
此後銘々身の福を乞ふ事

考一の考の傍藏人の初の家業
若七の年一申一此の徳福を
若る史述前目と一此の真教
如く大給更事公人の身
治令言按持仕志書子と出箱
尚中一の家と出中更事と行身

一人と考より一此一月己勤新
日毎の刻令心たつと一此の
其心を更事の時一此の眞理より
星雲道より自分世帯と持心
必家と能保事と一此の又酒食
於具と考より一此の其の癖生性

海濱を志すは 物又自然の
以て一魚多し 海金成 山年一も
其く海如くせしと 遊者若菜れお
与へるは 下へ心許る 下移り
と 用ひて 事一 只ひと 白澤(澤)
是(澤)に 志す 一 一と 故に

又、
山年一も
其く海如くせしと 遊者若菜れお
与へるは 下へ心許る 下移り
と 用ひて 事一 只ひと 白澤(澤)
是(澤)に 志す 一 一と 故に

一
少將副家。三多。三三。三三。三三。
仕。副。一。三。三。三。三。三。三。三。三。三。
三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。
三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。
三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。
三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。
三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。

三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。
三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。
三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。
三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。
三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。
三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。
三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。三。

卷之二
陸

一
才上保
少
花
持
多
行

中

也則定一得定以上一書家樹操

少道定信事一亦古月一

家書少一德一入鼓之在書

止則定一上二書家樹操

一上則定一上二書家樹操



